平成９年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

第１６回

小さな展覧会

'98. 8. 15 (土) ～ 8. 29 (土)

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究

展覧会開催にあたって

京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、1997年度に41件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのうち注目された調査15件をとりあげ、京都府内の各関係諸機関の発掘成果18件と合わせて展示しております。

この展覧会の目的は、冒頭で述べましたように、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、合わせて一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、よりわかりやすく、親しみやすい展示を心がけていくつもりであります。

今回の展覧会に後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力賜わった各関係機関に対しまして、深く感謝申しあげます。

1998年８月

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長　樋口　隆康

凡　例

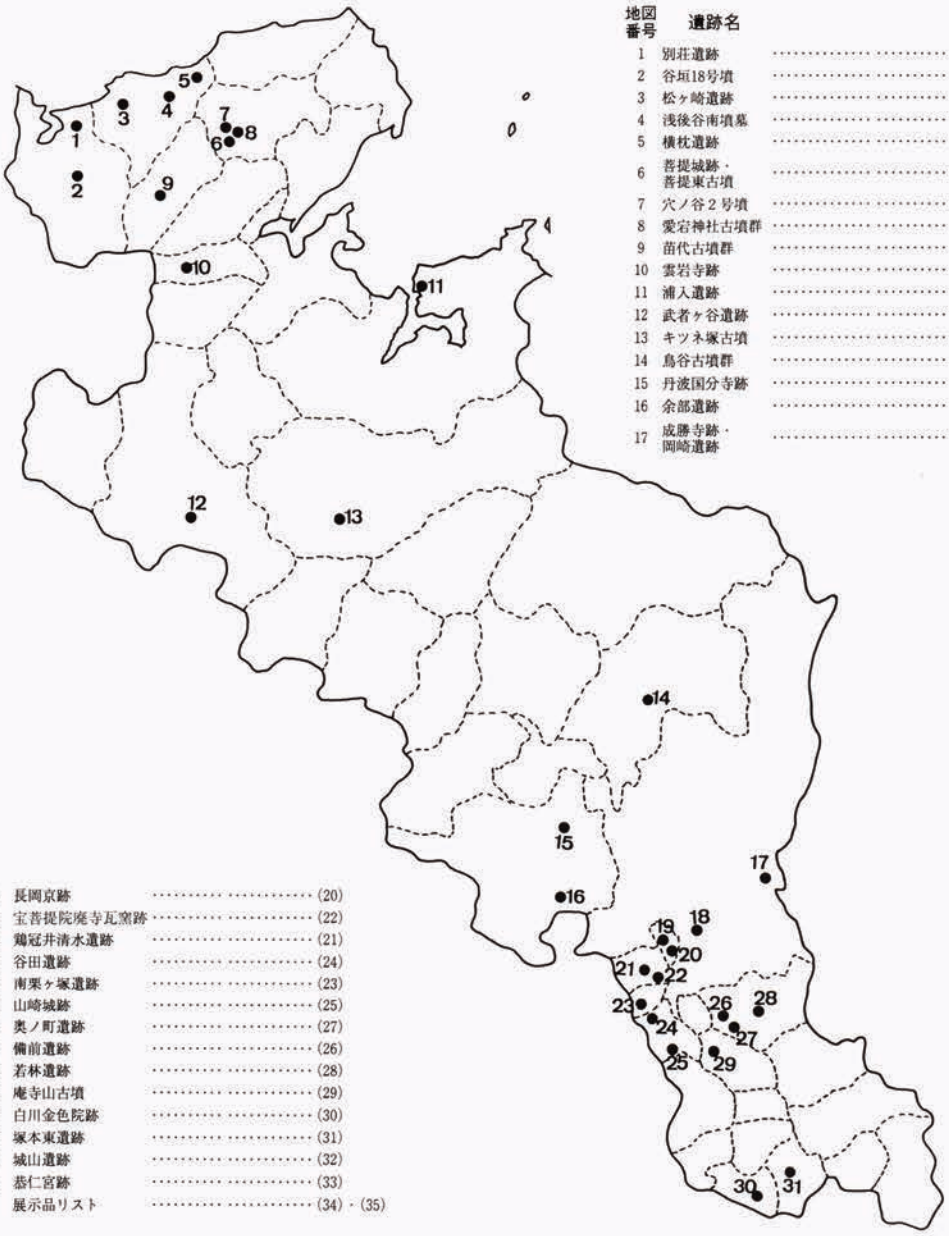
1. 本図録は、1998年８月15日～８月29日の第16回「小さな展覧会」の展示図録である。
2. 展示資料は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター及び各機関が主として1997年度に発掘調査を行った遺跡・遺物を対象とした。
3. 展示資料品中、都合により員数等が異なる場合がある。
4. 資料調査、図録作成、展示資料借用にあたっては、次の機関からご指導、ご協力を受けた。（順不同・敬称略）久美浜町教育委員会・野田川町教育委員会・舞鶴市教育委員会・福知山市教育委員会・綾部市教育委員会・亀岡市教育委員会・(財)向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・(財)長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・八幡市教育委員会・宇治市教育委員会・城陽市教育委員会・加茂町教育委員会・京都府教育委員会
5. 本図録は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第１課と京都府立山城郷土資料館が分担して作成した。

表紙カット：長岡京跡左京第399次調査出土銅印

亀岡市余部遺跡の玉髄製石針と安山岩・玉髄製石器

網野町横枕遺跡の緑釉陶器

目次・展示遺跡位置図



地図番号	遺跡名	頁
1	別荘遺跡	(1)
2	谷垣18号墳	(2)
3	松ヶ崎遺跡	(3)
4	浅後谷南墳墓	(5)
5	横枕遺跡	(4)
6	菩提城跡・菩提東古墳	(7)
7	穴ノ谷２号墳	(8)
8	愛宕神社古墳群	(6)
9	苗代古墳群	(9)
10	雲岩寺跡	(10)
11	浦入遺跡	(12)・(13)
12	武者ヶ谷遺跡	(11)
13	キツネ塚古墳	(15)
14	鳥谷古墳群	(16)
15	丹波国分寺跡	(18)
16	余部遺跡	(17)
17	成勝寺跡・岡崎遺跡	(19)
18	長岡京跡	(20)
19	宝菩提院廃寺瓦窯跡	(22)
20	鶏冠井清水遺跡	(21)
21	谷田遺跡	(24)
22	南栗ヶ塚遺跡	(23)
23	山崎城跡	(25)
24	奥ノ町遺跡	(27)
25	備前遺跡	(26)
26	若林遺跡	(28)
27	庵寺山古墳	(29)
28	白川金色院跡	(30)
29	塚本東遺跡	(31)
30	城山遺跡	(32)
31	恭仁宮跡	(33)
	展示品リスト	(34)・(35)

別荘遺跡

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

12～13世紀
久美浜町鹿野

▲　鍛冶工房跡

▲　石製のおもり

平安時代の鍛冶工房

日本海を眺望できる丘陵上に、弥生時代から鎌倉時代の遺跡が眠っていました。まず、弥生時代の終わり頃から古墳時代のはじめにはムラが築かれ、低地ではマツリをしていたようです。その後、古墳が築かれます。

平安時代の終わり頃、この地一帯は石清水八幡宮関係の庄園として開かれたようです。調査地の南隣には現在八幡神社があり、この境内にある古墳の石室からは鎌倉時代の石碑が見つかりました。また、他の古墳の調査で多数の経塚も見つかっており、この丘陵が信仰上の拠点であったことがわかります。そこに、鍛冶工房跡が見つかったことは、平安時代の手工業の実態を考える意味で興味深い事例といえます。

谷垣（たにがき）18号墳

（久美浜町教育委員会）

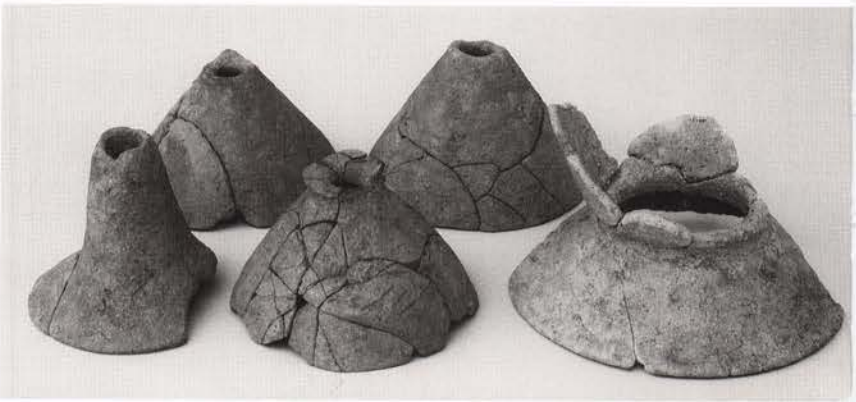
5世紀
久美浜町永留（ながとめ）

▲　低い墳丘と主体部1基

▲　床面に横たわる銅鏡

銅鏡2面を副葬

佐野谷川中流域西岸丘陵頂上付近に築造された古墳です。墓壙の南・北側の2か所に文様を異にする珠文鏡各1面と鼓形器台各1個を配し、北側には鉄斧と、南側にはヤリガンナを埋葬していました。また勾玉などの玉類も副葬されており、墳丘裾部からは祭祀用の高杯の脚部が出土しています。当時のこの地域の首長墓と考えられます。

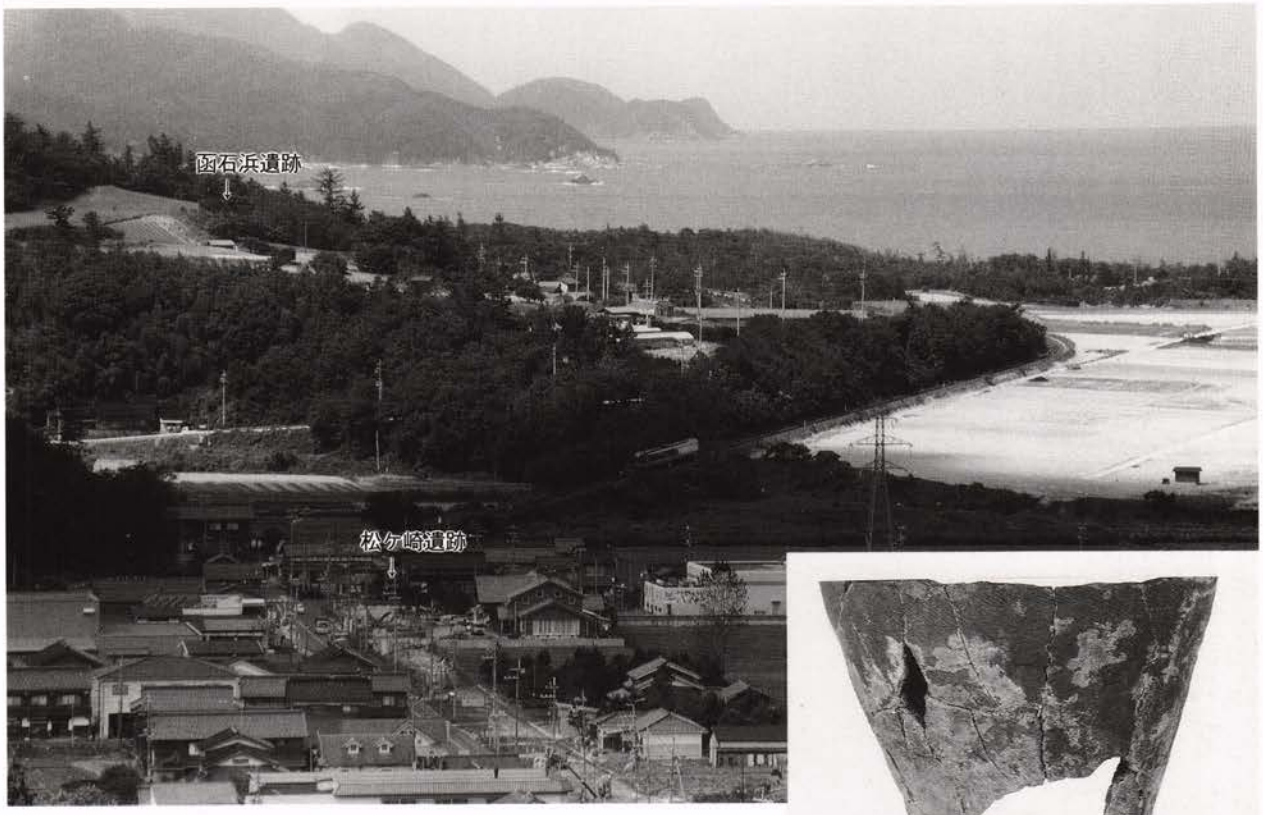


高杯と器台　▶

松ヶ崎遺跡（まつがさき）

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

約6000年前
網野町木津（きつ）

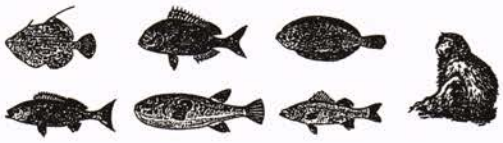


▲ 上空から見た松ヶ崎遺跡と函石浜遺跡

出土した6000年前の土器 ▶

砂丘の中の最古の縄文遺跡

この遺跡は、夏には海水浴客で賑わう網野町の海浜部にあり、近くには国史跡函石浜遺跡や「鳴き砂」で有名な琴引浜があります。現地表から約5mを掘り下げると、今から6000年前の縄文時代早期末から前期初頭の地面が見つかりました。遺物には、縄文土器、網のおもりや植物をすり潰す皿などの石器類、斧の柄に使用された木製品があります。さらに、シカ・イノシシなどの動物骨、マダイ・スズキ・ハモなどの魚骨などが出土し、漁撈や狩猟に生きた縄文時代の人々の暮らしぶりを彷彿とさせます。



出土した獣骨および魚骨 ▶
（写真提供：奈良国立文化財研究所）

横枕（よこまくら）遺跡

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

8～10世紀
網野町島津

▲　空から見た横枕遺跡

◀　墨書土器

謎の緑釉陶器

日本海に面した潟湖のひとつである離れ湖は、かつては天然の良港でした。この湖のそばで、200点を越える平安時代前期の緑釉陶器が出土しました。

平安京では都の器として使われたものの、なぜ、この地で多数使われたのか、謎です。

また、中国製の白磁碗も唐の都で使われるほどの質の高いもので、いよいよ謎は深まるばかりです。少なくともこの地で居住していた人々が、都と深いつながりをもっていたことは確かなようです。帯金具や墨書土器が出土したことも傍証としてあげられます。

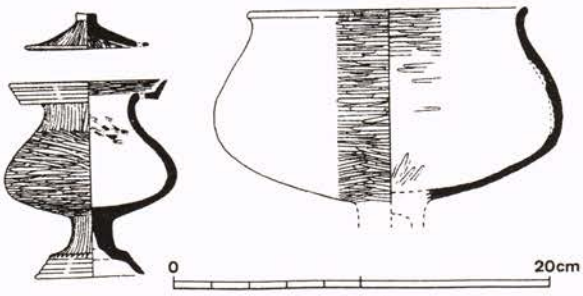
浅後谷南墳墓（あさごだにみなみ）

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

3世紀
網野町高橋

▲　巨大な墓壙（第1主体部）

▲　第2主体部の全景



▲　出土した土器類

丹後最大級の墳墓

丹後半島は、かつては海が河口部深く入り込み、潟湖と呼ばれる天然の良港を形成していました。福田川の中流部、丹後大地震の震源地の近くにある浅後谷南墳墓は、かつての潟湖の最奥部に築かれた弥生時代終末期の墳丘墓です。ここには、9基の埋葬施設が掘り込まれ、その内の中心的な第1・2主体部は全国的にも最大級の規模を誇ります。副葬品には鉄剣・ガラス玉があり、当時の王者の装いを知る好資料です。

愛宕神社古墳（あたごじんじゃ）

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

4世紀
弥栄町堤

▲　空から見た古墳の全景

▲　4匹の獣形の文様を持つ鏡（四獣鏡）

中国鏡、またまた出土

丹後半島の中央部に位置する弥栄町は、邪馬台国時代の鏡が集中する地域です。この古墳では、長さ6m余りの木棺から、櫛や刀などの豊富な副葬品が検出され、その中に2面の鏡（1面は小片のみ）がありました。これは、邪馬台国が使者を送った時代に中国で作られた鏡ですが、人為的に割られて木棺の片隅にまとめられていました。大切な鏡を、なぜ、割ってしまったのでしょうか？　謎が深まります。

菩提城跡（ぼだいじょう）・菩提東古墳（ぼだいひがし）

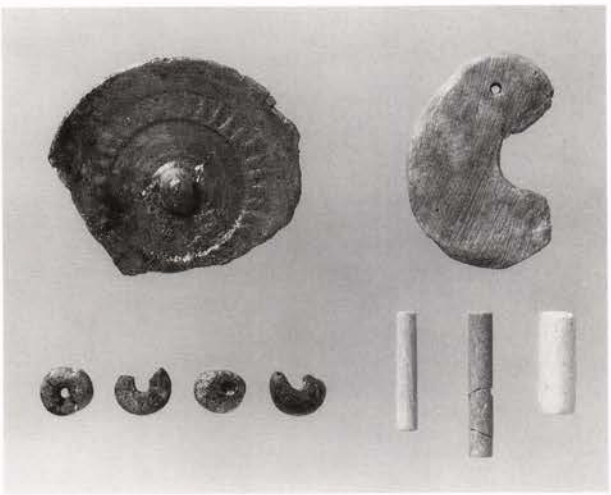
（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

4世紀
弥栄町吉沢（よっさわ）

◀ 上空から見た菩提城跡・菩提東古墳

古墳を改造して山城へ

戦国時代の丹後半島では、地域支配を行う土豪が群雄割拠し、各地に山城が築かれました。菩提城跡もその一つで、2棟の掘立柱建物跡、塀跡、堀などが確認されています。さらに、この山城の下層からは、約1600年前の古墳時代の埋葬施設を4基検出しました。その内の1基には、鏡・玉類を副葬しており、有力者の墓であったと思われます。



菩提東古墳の主体部（上）と副葬品（下）　▶

穴ノ谷2号墳（あなのたに）

（京都府教育委員会）

5世紀

弥栄町溝谷

▲　2基並んだ主体部

特異な装身具

竪櫛・鉄鏃・直刀・鎌・鉄環・勾玉・管玉を副葬した木棺と、鞘入鉄剣と竪櫛を埋納した木棺を並列に配した古墳です。丹後地方通有の古墳ですが、鉄環は、府内では加悦（かや）町小虫1号墳、園部町徳雲寺北1号墳と木津町幣羅坂（へらさか）古墳から出土しているに過ぎず、大変特異な腕輪と言えます。また棺内東部付近からの検出で、手首位置付近において着装状態で埋葬される例と比較対比しても興味深いです。

◀　勾玉・管玉が付着した釧（くしろ）と勾玉

苗代古墳群（なわしろ）

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

4～5世紀
峰山町二箇（にか）

▲ 2号墳から峰山市街地をのぞむ

▼ 2号墳第9主体部の壺棺

伝説の里の古墳

峰山町二箇の地は、丹後の羽衣伝説で名高い磯砂山の麓にあります。この丘陵上で古墳が見つかりました。特に2号墳では、幅の狭い尾根いっぱいを使い、上を削って平らな面を作り、そこに10人ほどの人を埋葬していました。1か所ずつ木棺を据え、2つだけは土器棺でした。

ふつう古墳時代になると1つの古墳には1人か、せいぜい3人ほどの人を葬るだけなのに、なぜこんなにたくさんの人を埋葬したのでしょうか。

これは、一時期に亡くなったのではなく、それ以前の弥生時代の伝統をひいたものと考えています。すなわち、家族の墓として使用する意識があったと思われます。

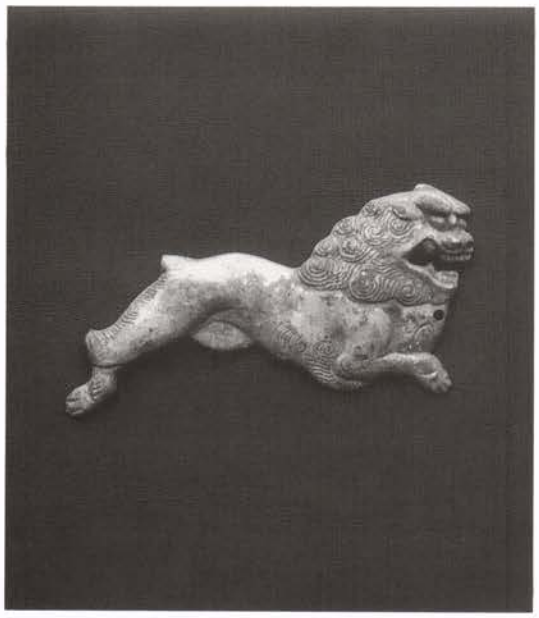
雲岩寺跡（うんがんじ）

（野田川町教育委員会）

12～14世紀
野田川町岩屋

▲　「大観通宝」を出土した集石遺構

▼　金銅製飾り金具



金色に輝く獅子

雲岩寺跡は、細長い加悦盆地の西側にある丘陵地にあります。この寺は大永５(1525)年に炎上したと伝えられています。

今回、寺の一画より鎌倉時代初頭頃の経塚が出土しました。青白磁の合子の蓋や身の他、金銅製の飾り金具もありました。これは、経筒かそれを入れる容器などにつけて、使用されていたものと思われます。当時の金工技術の高さを示すものとして注目されます。

なお、付近から北宋銭なども出土しています。「大観通宝」は10点ほど出土しており、一括して購入されたのかも知れません。

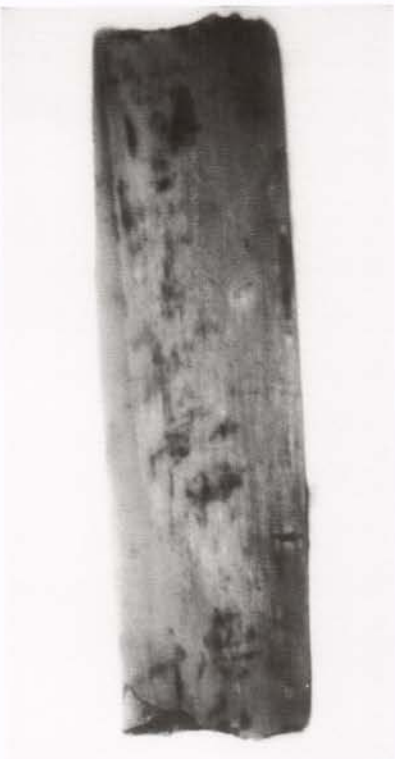
武者ヶ谷遺跡（むしゃがだに）

（福知山市教育委員会）

13～14世紀
福知山市堀

▲ 木簡が出土した溝状遺構

▼ 木簡



徳治の年号木簡

京都短期大学の南方の谷底で、木簡が出土しました。部分的にしか残っていませんが、その下部に「徳治」と読める文字がありました。徳治年間は鎌倉時代の３年間、西暦でいうと1306～1308年までの年号です。この木簡の出土によって、一緒に出土した遺物群の年代が押さえられることになりました。

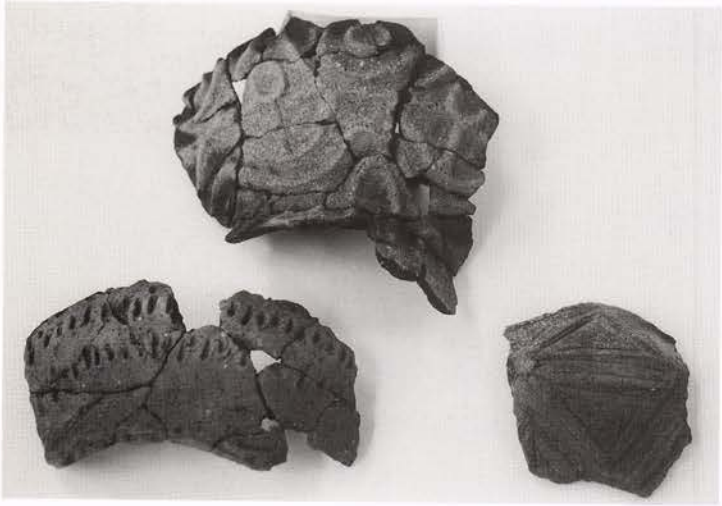
他の出土遺物は瓦器椀や土師器皿といった土器の他、鳥形・箸状木製品、下駄などがあります。この点からも、京都府北部での中世の生活を考える上で、基準となる資料が得られました。

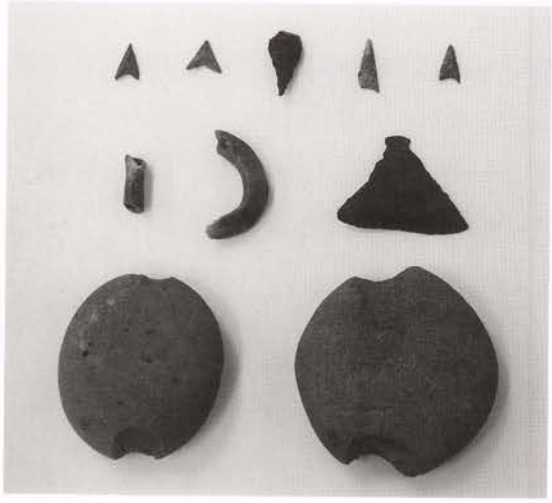
浦入（うらにゅう）遺跡

（舞鶴市教育委員会・京都府埋蔵文化財調査研究センター）

約7000年前～11世紀
舞鶴市千歳

▲　上空から見た遺跡の全景





▶　縄文時代の土器と石器

縄文の大集落と律令期の工房

舞鶴湾口にあるこの遺跡は、平成７年度からの大規模な発掘調査によって、奈良・平安時代では近畿最大の製塩遺跡として知られています。平成９年度の発掘調査では、製塩だけでなく、鉄製品を製作する鍛冶生産も大規模に行われていたことが判明しました。また、斜面を削って築かれた住居跡からは、墨書土器などが出土しました。また、これらの遺構の下層には、縄文早期（7000年前）～晩期（3000年前）にかけての遺跡が眠っていました。ここでは、土器・石器だけでなく、食料とされた動植物などが多量に出土し、今まで不明な部分の多かった京都府北部の縄文時代を語る良好な資料となりました。また、外洋航行用の丸木舟や北陸地方からもたらされた石製装身具は、縄文時代の人々が、海を通じた交易を行っていたことを示しています。

傾斜面を利用した住居群

広大な浦入遺跡群の中にあって、北西側の山麓傾斜面から竪穴式住居跡や掘立柱建物跡が多数見つかりました。奈良時代前半頃の須恵器とともに製塩土器の支脚も出土しており、製塩作業に従事した人々の居住空間であったと考えられます。

海浜部に営まれた製塩工房

集落跡の眼下から、奈良時代の小規模な製塩炉、平安時代の石敷製塩炉や直線的に複数設置された鍛冶炉が多数発見されました。また同時代の製塩土器やその支脚もたくさん出土しています。奈良～平安時代の若狭湾西端地域の製塩遺跡の様相が徐々に明らかになりつつあります。

奈良・平安時代の遺物

多量に出土した遺物中、「与社？」や「政」を書いた墨書土器、塩浜式製塩土器、傾式製塩土器支脚や、わが国最古の貨幣「和同開珎」など、注目すべき遺物があります。

縄文時代の丸木舟

（舞鶴市浦入遺跡、約5000年前）

浦入遺跡群の西端、「松ヶ崎」と呼ばれる砂嘴の付け根部分から、海浜部につながれていたかのように、縄文時代前期末頃の丸木船が見つかりました。スギの大木を刳り抜いて作られており、全国的にも大型の舟に属しています。

朱雀大路で発見された古墳群

（向日市法華寺古墳群、７世紀前半）

長岡京の朱雀大路があったと思われる場所で古墳時代終末期の古墳４基が発見されました。これまで乙訓地方では、横穴式石室を内部主体にする古墳群の存在が少なかっただけに、今回の発見は貴重な例となります。

壊されていた石室墳２基

（木津町片山（かたやま）３・４号墳、７世紀）

城山遺跡内に展開する古墳群で、すでに石室石材が抜き取られており、往時の姿を偲べませんが、飛鳥時代の薄葬を示す典型的な小型単葬墓です。古墳減少期にあって古墳を造営できた被葬者は、有力な地位（身分）を持った人物と考えられます。

キツネ塚古墳

（綾部市教育委員会）

6～7世紀
綾部市多田町

◀ 見事な石積みを見せる横穴式石室

▼ 右袖部の隅の土錘埋納状況

石室内から多量の土錘

南西方向に開口する右片袖の横穴式石室を内部主体とする、径約15m の独立円墳です。石室は頁岩系の石材を多用した割石積みで、粗雑な感じがします。石室内からは少なくとも５回の追葬を物語る多種多様な須恵器・土師器・鉄製品・耳環・砥石とともに、玄門部右側から119個の土錘が集中して出土しました。由良川流域の漁撈を背景に活躍した地域の有力者の古墳かもしれません。

鳥谷（とりだに）古墳群

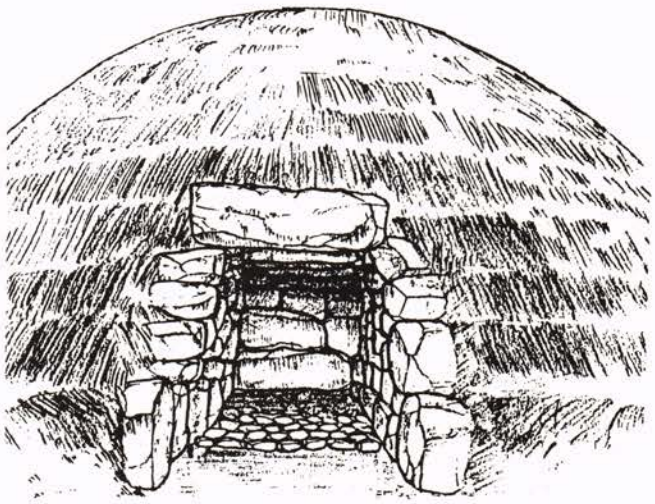
（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

6～7世紀
京北町下中（しもなか）

三足壺を副葬した府下唯一の古墳

京北町鳥谷4号墳は、横穴式石室を埋葬施設とする6世紀末の古墳です。この石室は敷石・排水溝を持つしっかりとしたものですが、天井石は残っていませんでした。また、未盗掘であったため、発掘調査によって豊富な副葬品が出土しました。副葬品には須恵器・鉄鏃・耳環が見られますが、特に珍しいのは三つの足が付いた三足壺と呼ばれる須恵器です。府内では京都市深泥池東岸窯跡で破片が見つかっていますが、古墳に副葬されて出土したものとしては初めての例となりました。

▲　上空から見た石室の全景



▲　石室復元図（『東山古墳群』より一部改変）

出土した須恵器　▶

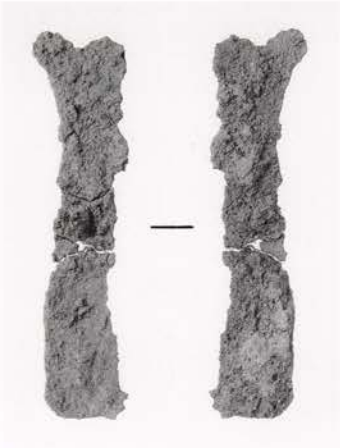
あまるべ 余部遺跡

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

紀元前後・5世紀

亀岡市余部町

▲　上空から見た遺跡と遺構の広がり



◀　弥生土器と鉄鋌

玉作り工房跡と鉄鋌

弥生時代の竪穴式住居跡1棟・方形周溝墓16基、古墳時代の埋葬施設2基・竪穴式住居跡8棟・掘立柱建物跡14棟が発掘され、鎌倉時代以降の畑などの耕作溝も見つかった、弥生時代～江戸時代の複合遺跡です。弥生時代中期後半頃に拠点集落の外縁部の碧玉製管玉を製作していた工房跡から玉髄製打製石針が出土したことも特筆すべきでしょう。5世紀前半頃には古墳が築造されていたようで、その残骸と思われる埋葬施設内から鉄鋌2枚や勾玉などが出土しました。

丹波国分寺跡（たんばこくぶんじ）

（亀岡市教育委員会）

8～12世紀
亀岡市千歳町

▲　丹波国分寺跡と調査地全景

▲　梵鐘を鋳造した遺構

三彩と梵鐘

亀岡の田園風景の中にぽつんとある現国分寺の周辺一帯は、奈良時代から平安時代にかけて大規模な国分寺が存在していました。

三彩の大きな皿は、当時の豪華さを目の当たりにできるものです。また、八稜鏡や梵鐘を鋳造するための施設が発見されました。鋳造施設がみつかったことは、平安時代になっても寺を維持する努力がなされていた証拠です。ここで生産された梵鐘は、日々人々に時を告げ、緊急時には人々に注意を喚起し、集合を促したことでしょう。

成勝寺跡（じょうしょうじ）・岡崎（おかざき）遺跡

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

5世紀・13世紀
京都市左京区岡崎

▲　瓦積みの井戸

▼　竪穴式住居跡

成勝寺はどこに？

平安時代後期に京都の白河の地に建てられた六つの寺については、これまでの発掘調査によって少しずつわかっています。今回の成勝寺跡は2度目の調査となりました。その結果、確実に成勝寺があったという証拠は得られませんでしたが、鎌倉時代の井戸2基や沼に捨てられた土器などが出土しました。井戸の1つは多数の瓦を使って組み合わせたもので、六勝寺関係の瓦を転用したとも考えられます。

なお、古墳時代には、住居が築かれていたことがわかり、当時の集落がこの地点まであったことがわかりました。

長岡京跡（ながおかきょう）

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）　8～11世紀

長岡京跡左京第399次　京都市南区久世東土川町

▲　南方の上空から見た長岡京跡

▲　京（みやこ）で初の銅印

邸宅と印章

名神高速道路の拡幅工事に伴う長岡京跡の調査は、ここ10年来継続されています。調査地の桂川パーキングエリアは、長岡京の内裏の東、左京の南一条大路と東三条大路の交差点にあたり、当時は邸宅が立ち並んでいました。おそらく、人々は朝な夕なに西にそびえる大極殿の雄大な姿を仰ぎ見つつ、日々の生業を営んだのではないでしょうか。

今回の調査では、掘立柱建物跡や緑釉陶器とともに「福」の裏文字を１字陽刻した青銅製の印章が出土しました。祭祀に利用されたものかもしれません。他に貴族が文字を練習した木簡や呪術用の人形（ひとがた）も出土しています。

鶏冠井清水遺跡（かいできよみず）

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）
長岡京跡左京第400次

紀元前１世紀，
８・13世紀
向日市鶏冠井町

▲　下層で見つかった方形周溝墓

▲　瓦器と弥生土器

条坊と方形周溝墓

長岡京跡左京二条三坊五町域で、東三坊坊間小路の西側溝とともに、ほぼ同一検出面から弥生時代中期前半頃に造営された方形周溝墓４基が見つかりました。方形周溝墓は一辺約12.5ｍから一辺約4.0ｍまでと規模に差がありますが、各周溝内から出土した弥生土器には大きな特徴的変化が無く、短期間に墓域として利用されたのでしょう。おそらく拠点集落である鶏冠井遺跡を形成する墓域の一角にあたると考えられます。

宝菩提院廃寺瓦窯跡

（向日市埋蔵文化財センター）　7世紀
長岡京跡右京第581次　向日市寺戸町

宝菩提院の瓦窯発見

宝菩提院というお寺は、持統天皇の勅願によって7世紀末に建立されたとの伝えを持つ、奈良・長岡・平安時代を通じて、乙訓地方で最も栄えた寺として有名です。寺跡付近からは、白鳳期の瓦が出土し、向日市最古の寺院であったことは確かなようですが、創建時の様子についてはよくわかっていませんでした。

今回の調査では、この寺の創建時の屋根に葺かれたと思われる瓦を生産していた瓦窯跡が発見されました。残念ながら、窯の本体は削られていましたが、窯から掻き出された灰原の中に入っていた瓦や須恵器によって、宝菩提院の建立当時の状況を知る手掛かりが見つかってきました。

▲　瓦窯跡から出土した白鳳期の軒瓦

▲　宝菩提院の瓦を造っていた瓦窯跡

みなみくりがづか 南栗ヶ塚遺跡

（長岡京市埋蔵文化財センター）
長岡京跡右京第570次

約２万年前
長岡京市調子（ちょうし）

接合した石器の原石

京都盆地への人類の登場は、今から約３万年ほど前の旧石器時代からと考えられています。長岡京市の南栗ヶ塚遺跡では、この旧石器時代後期に人々が使っていたナイフ形石器などが出土しました。出土した石器の中には、ナイフに加工される前のかたまり（石核）や石核から削り取られた石器の元になる剝片などもありました。珍しいことに、この石核と剝片が接合し、石器の原石が復原できました。

今回発見された石器の材料は、奈良と大阪の境にある二上山の麓付近で採れるサヌカイトと呼ばれるもので、原石を運んできて乙訓で加工されたことが想像されます。

▲ 接合した石器

▲ 石器の出土状況

谷田遺跡（たにだ）

（長岡京市埋蔵文化財センター）

4～6世紀
長岡京市奥海印寺（おくかいいんじ）

▲　火災にあった家の跡

火災にあった家

長岡京市の谷田遺跡では、古墳時代の家の跡が3棟発見されました。このうち古墳時代後期の家の跡では、火災にあった家が掘り出され、床面に炭になった屋根の材木が放射状に倒れているのが発見されました。火災住居というのは、暮らしの状態がそのまま残されているため、当時の人々の生活を知る上で貴重な資料となります。焼け落ちた建築材料によって、当時の家の屋根の組み方がわかりますし、カマドのまわりにだけたくさんの土器類が集中して置いてあったことなどから、家の中が台所や居間といった使い分けがきっちりされていたことがわかります。

▲　火災住居から出土した土器群

山崎城跡（やまざきじょう）

（大山崎町教育委員会）

9世紀
大山崎町大山崎（おおやまざき）

平安時代の蔵骨器

山崎城は、天下分け目の戦いで知られる山崎の合戦の後、明智光秀を破った羽柴（豊臣）秀吉が天王山の山頂に築いた山城です。

この山崎城や豊臣秀吉のことを紹介する説明板を立てる予定地を発掘したところ、木炭で覆われた陶器の壺が発見されました。

この壺は、桃山時代のものではなく、それよりはるか以前の平安時代の火葬した骨を納めた蔵骨器でした。愛知県北東部の猿投（さなげ）地方で生産されたと思われる壺の中からは、30～50歳と推定される女性の火葬骨とともに水晶製の玉が二つ発見されました。

▲　女性の火葬骨が入れられていた蔵骨器

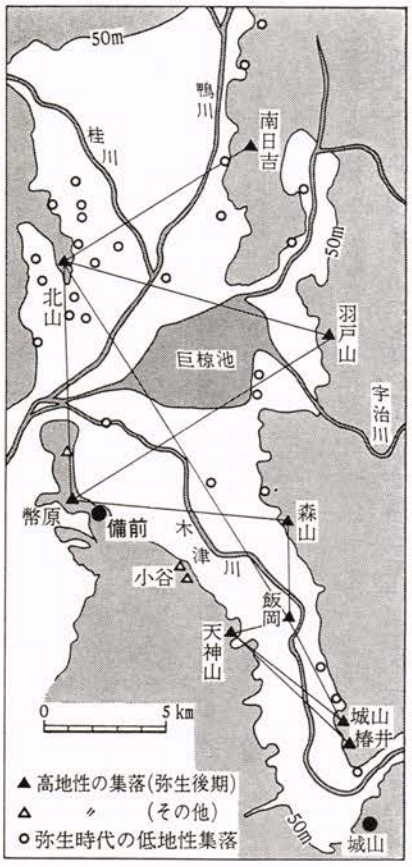
▲　桃山時代の城跡から発見された平安時代の蔵骨器

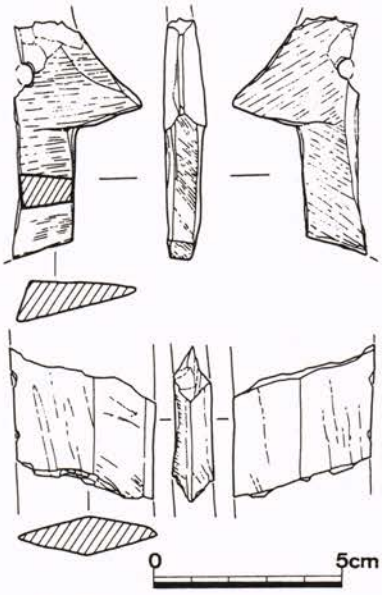
備前遺跡

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

2世紀
八幡市美濃山

▲ 出土土器（左）と住居跡（右上），土器出土状況（右下）





▲ 武器形石製品実測図

◀ 南山城の高地性集落
（『向日市史』上巻より一部改変）

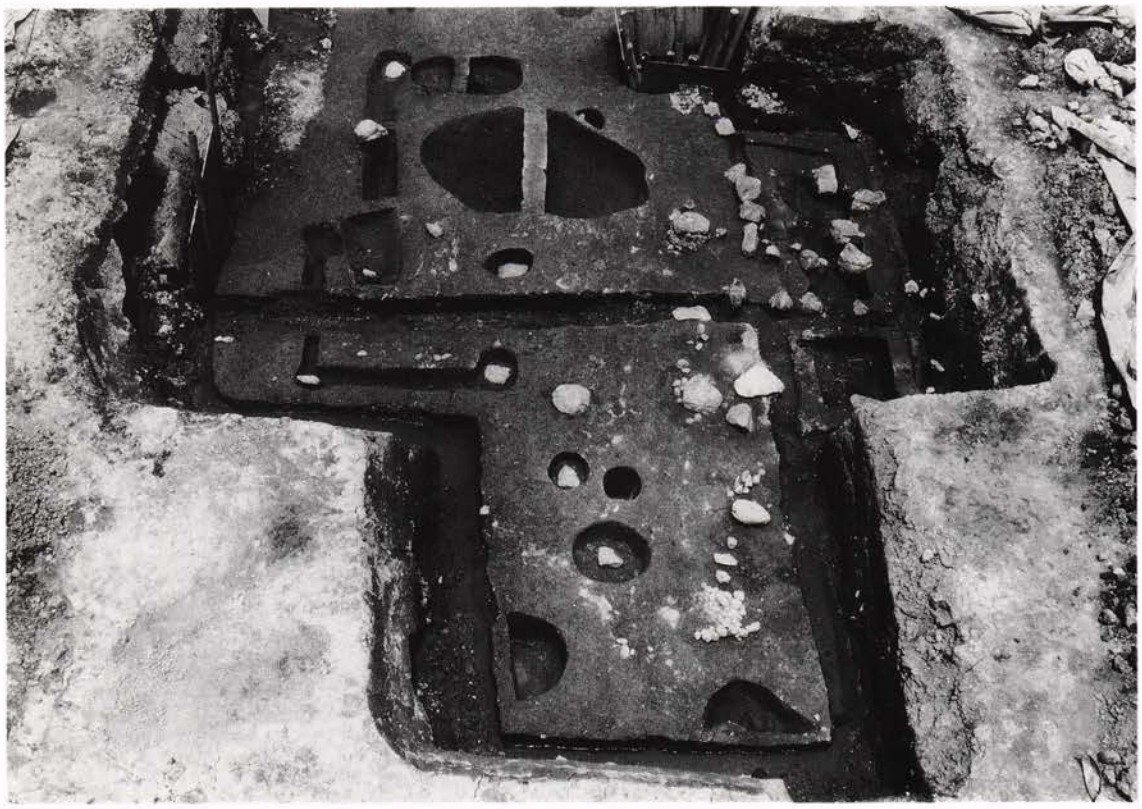
戦闘に備えた丘陵のムラ

八幡市の西南部に位置する美濃山地区には、弥生時代後期の集落が点在していますが、それらは高地性集落と呼ばれる丘陵の頂部や斜面に住居を築いたもので、魏志倭人伝に記された「倭国大乱」と何らかの関係があるものと思われます。今回の調査では、5基の住居と丘陵中腹をめぐる環濠1基が検出されました。また、この遺跡では、石戈や石剣と呼ばれる武器形の石製品が検出されました。さらに、環濠からは多量の土器が捨てられた状態で見つかっており、集落の緊張状態を彷彿とさせます。

奥ノ町遺跡（おくのちょう）

（八幡市教育委員会）

14～17世紀
八幡市橋本



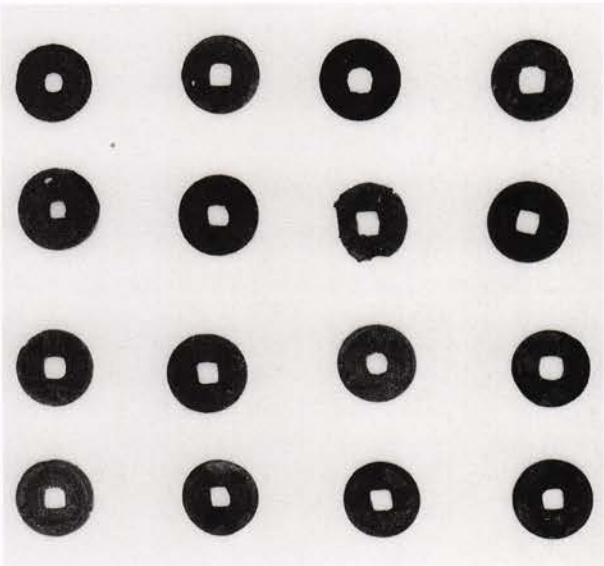
▲　礎石を持った建物跡

新発見の集落跡

木津川・宇治川・桂川といった京都南部の主要な三つの河川は、八幡市の男山丘陵と大山崎町の天王山に挟まれた付近で合流し、大阪湾に向かって流れる淀川となります。これまで、淀川の北側にあたる天王山の麓、山崎では、交通の要所として古代から引き続いて営まれる集落の跡が確認されてきましたが、男山の北麓では未確認でした。

今回の調査では、礎石を持った中世の建物跡や多数の土器類、古銭、包丁、釘といった金属器が発見されました。この男山の北麓にある橋本にも京都と大阪をつなぐ交通の要所としての集落があったのかも知れません。

▼　町のにぎわいを示す銅銭



若林遺跡（わかばやし）

（宇治市教育委員会）

3～5世紀
宇治市伊勢田町（いせだちょう）

▲ 方形周溝墓の全容

弥生～古墳時代の墓地

宇治丘陵の西北端部にあたる若林遺跡は、最近の発掘調査の増加によって、弥生時代から古墳時代にかけての墓地であったことがわかってきました。平成6年度の調査では、盛り土を持たない古墳時代の墓から数百点にも及ぶ玉類が出土しています。今回の調査では、弥生時代末期の方形周溝墓や古墳時代中期の盛り土を削られた古墳が発見されました。この墓地を営んだ人々の暮らしの跡は、見つかっていませんが、この遺跡の西方に広がる平野部にあったのではないかと想像されます。

▲ 溝から出土した土器

あんでらやま
庵寺山古墳　（宇治市教育委員会）

4世紀
宇治市広野町（ひろのちょう）

古代の輝きを保った銅鏡

庵寺山古墳は、宇治市南部と城陽市北部にまたがる久津川古墳群のひとつで、直径56m、高さ9mという府内でも最大級の円墳です。

平成8年度の発掘調査で出土した半円方形帯神獣鏡と呼ばれる銅鏡は、一部分ですが古墳時代当時の輝きを保っていました。この調査で同時に発見された鉄器の中には、その後の整理復原作業によって、鉄刀や農具に混じってヤスや釣針といった珍しい鉄製の漁具が含まれていることがわかりました。

今回は、以前の調査で出土し、元の形に復原できた家形埴輪もあわせて展示しています。

▲　古代の輝きを保った銅鏡

▲　何度も盗掘を受けた埋葬主体部

しらかわこんじきいん 白川金色院跡

（宇治市教育委員会）

12世紀
宇治市白川（しらかわ）

平安貴族のタイムカプセル

白川金色院は、後冷泉天皇の皇后であった四条宮寛子（藤原頼通の娘）によって平安時代後期に創建されたと伝えられる寺院ですが、平成５年度から始まった発掘調査で、徐々にこの寺の実態が明らかにされてきました。特に、一間四面堂と呼ばれる白川金色院でも最も重要な建物跡の発見は、平安時代後期に創建されたことを裏付ける重要な発見でした。今回の調査では、平安時代末期の貴族たちの願いが込められた経塚遺構が発見されました。お経を納めた経筒は失われていましたが、鏡や輸入陶磁器などの豪華な品物が埋納されていました。

▲ 山間に営まれた経塚群

▲ 経塚に納められた豪華な品々

塚本東遺跡（つかもとひがし）

（城陽市教育委員会）

3～4世紀
城陽市寺田（てらだ）

古墳時代初頭の集落跡？

城陽市の東部山麓一帯は、芝ヶ原古墳や久津川車塚古墳といった有名な古墳がたくさん造られている地域です。しかし、これまではこうした古墳造りを支えた当時の集落の場所や様子がよくわかりませんでした。

塚本東遺跡がある地域は、木津川の右岸沿いに広がる平野部で、今回初めて古墳時代初頭の溝とともに大量の土器が発見されました。この溝の役割は、よくわかりませんが、今後、空白になっているこの地域の古墳時代の人々のムラを探ってゆく重要な手掛かりになるものと思われます。

▲　溝跡から出土した土器

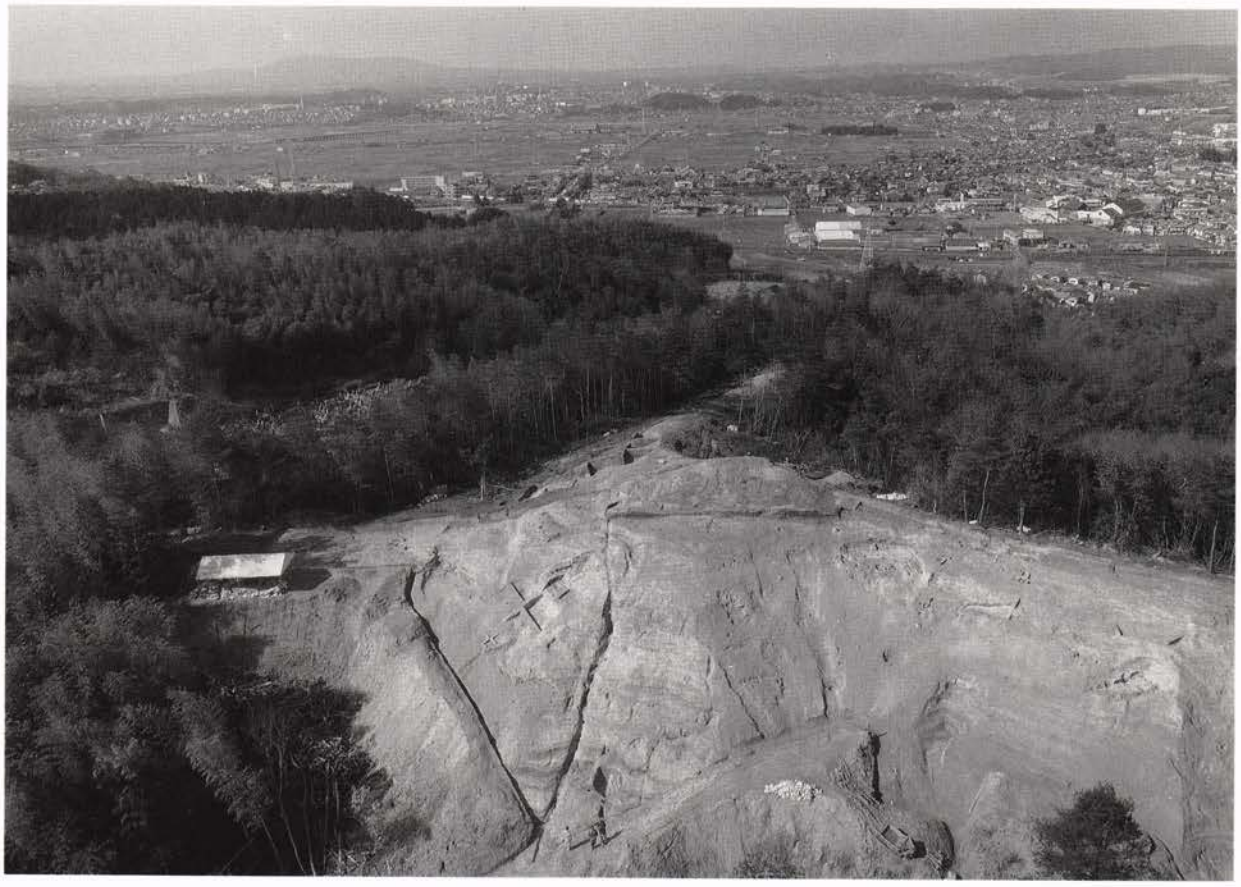
▲　付近にムラが想像される溝跡

城山（しろやま）遺跡

（京都府埋蔵文化財調査研究センター）

2世紀

木津町城山



▲ 南方上空から眺めた城山遺跡

◀ 銅鐸形土製品

◀ 獣帯鏡片

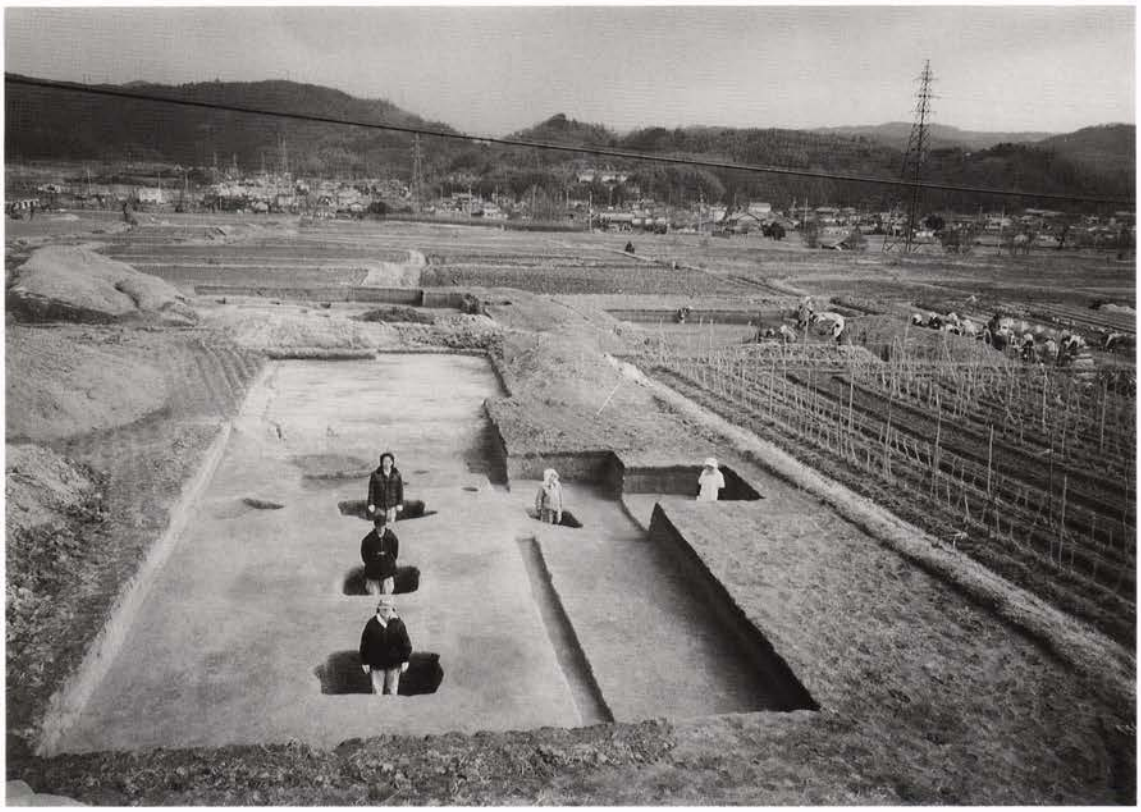
京都府最南端の高地性集落

木津川河谷により形成された山城盆地の南端、標高約100m、沖積地との比高差約60mの丘陵上に展開しています。一辺4～5mの隅丸方形の竪穴式住居跡が主ですが、円形の大型竪穴式住居跡も1棟検出されています。さらに陸橋を敷設した住居跡を画する濠状溝と、等高線に沿って掘削された溝が見つかり、いずれも集落を取り囲んだり、区画したものでしょう。また獣帯鏡破鏡を埋納した方形台状墓も2基確認されています。山城盆地を北方に一望しつつ、奈良市内をも眺望できる絶好の地を占めた高地性集落と考えられます。

恭仁宮跡（くにきゅう）

（京都府教育委員会・加茂町教育委員会）

8世紀
加茂町例幣（れいへい）ほか



▲ 内裏を二つに区画する塀跡

二つの内裏区画

今回、天皇の居住空間だった内裏地域の発掘調査を行ったところ、恭仁宮の内裏は大きく二つの区画に分かれる可能性が強くなってきました。この二つの内裏区画は、それぞれ、どんな役割を持っていたのでしょうか。恭仁宮についての謎はまだまだ残されています。

なお、恭仁宮跡の発掘調査では、一昨年までで宮の範囲や形を特定し、他の都に比べ縮小された長方形であったことがわかってきましたが、昨年の調査でも宮の北側を区切る大宮垣の一部が、予想通りの線上で発見されています。

▲ 宮の北側を区画する築地塀跡

展示品リスト

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
別荘遺跡	土師器	4	12～13世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	黒色土器	3	〃	
	蔵骨器	1	〃	
	鉄製品	5	〃	
	鉄滓	2	〃	
	分銅	1	〃	
谷垣古墳群	鼓形器台	1	5世紀	久美浜町教育委員会
	高杯脚部	4	〃	
	鉄斧	1	〃	
	鉄製ヤリガンナ	1	〃	
	玉類	2連	〃	
	鏡	2	〃	
松ヶ崎遺跡	縄文土器	6	約6000年前	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	石器	4	〃	
	動物遺存体	一括	〃	
横枕遺跡	緑釉陶器	12	8～10世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	須恵器	2	〃	
	土師器	6	〃	
	漆器	1	〃	
	墨書土器	3	〃	
	帯金具	1	〃	
浅後谷南墳墓	弥生土器	3	3世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	鉄製品	7	〃	
	玉類	一括	〃	
愛宕神社古墳	鏡	2	4世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	鉄製品	11	〃	
	玉類	一括	〃	
菩提城跡・菩提東古墳	鉄鋤先	1	12～13世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	玉類	一括	4世紀	
	鏡	1	〃	
穴ノ谷古墳群	鉄環	2	5世紀	京都府教育委員会
	勾玉	2	〃	
	鉄鏃	2	〃	
	鉄鎌	1	〃	
	鉄剣	1	〃	
苗代古墳群	壺棺	2	4～5世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	3	〃	
	鉄製ヤリガンナ	4	〃	
	勾玉	2	〃	
雲岩寺跡	黒色土器	1	12～14世紀	野田川町教育委員会
	土師皿	1	〃	
	古銭	10	〃	
	青磁・白磁	9	〃	
	飾り金具	1	〃	
武者ヶ谷遺跡	木簡	1	13～14世紀	福知山市教育委員会
	木製品	13	〃	
	瓦器	5	〃	
	土師器	4	〃	
	須恵器	3	〃	
浦入遺跡	製塩土器	4	8世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	須恵器	8	〃	
	土師器	2	〃	
	鞴の羽口	1	〃	
	鍛冶滓	1	〃	
	古銭	1	〃	
	縄文土器	8	約5500～3000年前	舞鶴市教育委員会
	石製品	8	〃	
	石製装身具	2	〃	

遺跡名	遺物名	点数	時代	保管者
キツネ塚古墳	須恵器	15	6～7世紀	綾部市教育委員会
	土師器	2	〃	
	鉄製品	8	〃	
	耳環	4	〃	
	土錘	20	〃	
鳥谷古墳群	須恵器	14	6～7世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	耳環	2	〃	
	鉄刀	3	〃	
余部遺跡	弥生土器	2	紀元前後	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	玉作り関連遺物	一括	〃	
	石製品	2	〃	
	鉄製品	5	5世紀	
	須恵器	2	5～6世紀	
丹波国分寺跡	八稜鏡	1	12世紀	亀岡市教育委員会
	三彩皿	1	8世紀	
	梵鐘鋳型片	5	10～11世紀	
	軒瓦	4	8～12世紀	
	須恵器	5	8世紀	
成勝寺跡・岡崎遺跡	軒瓦	6	12世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	常滑焼大甕	1	13世紀	
	須恵器	4	5世紀	
長岡京跡	銅印	1	8～11世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	不明瓦	2	〃	
	刻印瓦	1	〃	
	土師器	6	〃	
	須恵器	2	〃	
	鳥文線刻緑釉	2	〃	
鶏冠井清水遺跡	弥生土器	5	紀元前1世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	土師器	4	8世紀	
	瓦器	1	13世紀	
宝菩提院廃寺瓦窯跡	軒丸瓦	1	7世紀	(財)向日市埋蔵文化財センター
	軒平瓦	1	〃	
	須恵器杯	3	〃	
	窯壁片	一括	〃	
南栗ヶ塚遺跡	ナイフ形石器など	一括	約2万年前	(財)長岡京市埋蔵文化財センター
谷田遺跡	土師器高杯	1	4～6世紀	〃
	土師器壺	1	〃	
	須恵器杯蓋・身	5	〃	
	須恵器高杯	1	〃	
	管玉	1	〃	
山崎城跡	蔵骨器	1	9世紀	大山崎町教育委員会
	水晶玉	2	〃	
備前遺跡	弥生土器	10	2世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	石製品	3	〃	
奥ノ町遺跡	土師皿	10	14～17世紀	八幡市教育委員会
	庖丁	1	〃	
	鉄刀柄	1	〃	
	古銭	20	〃	
	鉄釘	10	〃	
若林遺跡	壺	5	3～5世紀	宇治市教育委員会
	甕	1	〃	
庵寺山古墳	半円方形帯神獣鏡	1	4世紀	宇治市教育委員会
	鉄器	一括	〃	
	家形埴輪	3	〃	
白川金色院跡	銅鏡	2	12世紀	宇治市教育委員会
	青白磁合子	1	〃	
	青白磁小壺	1	〃	
塚本東遺跡	壺・甕など	5	3～4世紀	城陽市教育委員会
城山遺跡	弥生土器	8	2世紀	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	鏡	1	〃	
	鐸形土製品	1	〃	
	石庖丁	1	〃	
恭仁宮跡	土製犬	1	中世	京都府教育委員会
	軒瓦	6	8世紀	加茂町教育委員会
	文字瓦	1	〃	

KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

第16回小さな展覧会　発行日／1998年8月15日
編集・発行／財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3　TEL. 075-933-3877　印刷／中西印刷株式会社

主催　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
後援　京都府教育委員会
協賛　向日市文化資料館